

4 平成 29 年度学校評価実施報告書（実施結果）

視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価		
		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程学習指導	②授業改善計画に則り1年間を通じて組織的な授業改善を行う。 ③生徒による行事の企画・運営を通して社会性・自主性を育成する。	②生徒学力調査の結果、生徒による授業評価、各科目における学習の到達度等生徒の実態を踏まえて組織的、計画的な授業改善を行う。また、授業外での補習等もきめ細かく対応する。 ③各種行事（体育祭・文化祭・文化部発表会等）で、生徒の自主的な運営、企画を一層促す。行事がスムーズに行われるように、前年度から上級生が活動し、下級生を引っ張る体制を整える。	②効果的な授業改善が実施できたか。（生徒学力調査、生徒による授業評価、各種研修会での担当者評価） ③学校行事や生徒会活動の企画・運営に、生徒がより積極的に関わることができたか。（生徒アンケート・担当者評価）	②授業改善計画に則り組織的計画的な授業改善に取り組んだ。「生徒学力調査」「生徒による授業評価」の結果を分析し改善へ生かす。 ③体育祭・文化祭・文化部発表会・球技大会で、生徒の主体的な運営、企画が行われた。行事がスムーズに行われるように、前年度から上級生が活動し、下級生をリードする体制を整えた。球技大会では当日の運営をほぼ生徒だけで運営できた。	②各科目の年間指導計画を精査し、科目ごとに指導内容をより的確に定める。 ③体育祭・文化祭は引き続き共通テーマとし、その関連性を有意義なものとする。文化部発表会・球技大会はさらに生徒の主体的な運営、企画が行われるようにする。前年度からの体育祭・文化祭の体制作りは、各行事終了後、速やかに行えるようにし、内容をより豊かなものにする。	・提出した課題のプリントに丁寧にコメントを書いてくださる先生がいてありがたい。 ・指定校推薦で決まった生徒と一般入試の人との温度差がある。 ・「トビタテ留学」の制度を使って海外へ行ってもらいたいと思ってはいたが、本人が受験勉強との両立が不安だということで断念した。世界に目を向けられる機会を学校で作ってもらえるとよい。 ・授業の質をより高めて学力を向上させて欲しい。 ・どう評価したら学習意欲が高まるかという研究は非常に賛同する。楽しみにしている。 ・観点別評価は、自分に何ができて何が足りないのかを確認するためのものという説明があり、それが手元に来るのならよいものだと思う。 ・H30年度生に向けた教育課程の改訂をスピード感を持って進めてほしい。	②「生徒による授業評価」の結果については概ね良好である。 ③体育祭・文化祭・文化部発表会・球技大会・マラソン大会・合唱コンクールで、生徒の主体的な運営、企画が行われた。体育祭と文化祭では行事がスムーズに行われるように、前年度から上級生が活動し、下級生をリードする体制を整えた。球技大会では当日の運営をほぼ生徒だけで運営できた。合唱コンクールは6月から3月に移動し、クラス活動の集大成となった。	②引き続き年間を通じた授業改善計画に則り、組織的計画的な授業改善に取り組む。その基礎となる各科目の年間指導計画において、科目ごとに指導内容をより的確に定める。他界の先進校の取組等からの情報収集を引き続き行う。 ③体育祭・文化祭は引き続き共通テーマとし、その関連性を有意義なものとする。文化部発表会・球技大会はさらに生徒の主体的な運営、企画が行われるようにする。前年度からの体育祭・文化祭の体制作りは、各行事終了後、速やかに行えるようにし、内容をより豊かなものにする。
2	生徒指導・支援	①指導計画・目的を明確にした上で、職員全体で組織的に取り組む。 ②運動部、文化部ともに、高い加入率を維持し、部の充実した活動により「人づくり」を行う。 ③ケース会議や教育相談を活用し、多様な生徒の情報を共有し、有効な支援を行う。	①頭髪・服装指導や交通法規やマナー理解を深めるための登下校指導や交通安全教室等を定期的に行い、その都度効果検証を行う。 ②高い入部率維持のため、学校説明会、新入生歓迎会、部活動見学会等をより効果的に実施する。 ③教育相談・生徒支援組織図に従い、生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解を深めるための教育相談やケース会議等をより効果的に活用し、組織的に取り組んでいく。	①指導や講習会等を年間3回以上実施・開催し、改善できたか。（担当者評価） ②入部率が90%以上か。12月の部員調査で継続性が見られたか。（担当者評価） ③教育相談・生徒支援組織図に基づき、組織的に実施できたか。 年2回の生徒の意識調査等を有効活用し、生徒の早期対応に役立てたか。（生徒アンケート・担当者評価）	①定期試験中に頭髪・服装指導を行い、生徒の状況把握に努めている。また、週2日登校指導を行い、生徒の交通マナーの改善に努めている。 ②12月の部員調査では入部率が90%を上回り、また継続性も見られた。 ③ケース会議等を通じて生徒の状況を共有できるようにしている。	①登校時のマナーについて近隣住民に迷惑をかけないよう、警察と連携しながらルール・マナーを遵守するよう今後も指導を継続していく。 ②高い入部率維持のため、学校説明会、新入生歓迎会、部活動見学会等の内容をより充実したものとする。 ③支援を必要とする生徒についての情報共有や、専門機関等との連携をよりすすめていく。	・生徒が気持ちよく挨拶できるようになるとよい。 ・部活に毎日行っていて、いつ勉強しているのかと思うが、主体的に自分で考えてやっている。 ・文化祭、体育祭での服装などについては、生徒と先生の信頼関係を大切にして、より良い行事にしてほしい。 ・部活動インストラクターが配属されているところに興味がある。 ・大きな事故、怪我に至らないよう、自転車マナーについて指導を重ねてほしい。	①頭髪・服装については着実に成果をあげている。一方登校マナーについては決して良好といえないため、登校指導等を継続して実施していく。 ②12月の部員調査では入部率が90%を上回り、また継続性も見られた。部活動を通してより積極的にリーダーシップを発揮してほしい。 ③生徒支援の観点から職員間の情報共有を図ることができた。専門機関との連携をより緊密に行えるようにしたい。	①登校指導等の通年実施や集会等でのマナー啓発を行っていく。 ②高い入部率維持のため、学校説明会、新入生歓迎会、部活動見学会等の内容と実施期間等を見直し、より充実したものとする。生徒による部活動への勧誘活動を活性化させる。 ③いじめを疑われる事案に対して迅速に対応できるよう、アンケート等を有効に活用しつつ、職員間の情報共有、生徒との信頼関係の構築を図る。
3	進路指導・支援	①②外部資格試験等をより一層活用する。また、生徒一人ひとりに内在する多様な個性と能力の発見、伸長のため、講習等を実施する。 ③④キャリア教育実践プログラムを充実させ、より高いレベルでの生徒の進路実現、自己実現を支援する。	①TOEIC Bridgeを1、2年生全員対象に実施する。昨年に引き続き実用英語技能検定の準会場となり、生徒に受験の機会を提供する。学習者のニーズに合致した内容の夏期講習を実施する。 ②③「総合的な学習の時間」だけでなく、様々な教育活動の機会を捉えて、多様な内容のキャリア教育実践プログラムを実施する。	①5割以上の生徒に英検2級か同程度の力がついたか。講習により生徒の能力が伸びたか。（TOEIC Bridge 得点、生徒アンケート・担当者評価） ②③多様な内容のプログラムを実施し、生徒の進路実現、自己実現を支援し、進路実績が向上したか。（生徒アンケート・担当者評価）	①TOEIC Bridgeを1、2年生全員を対象に実施した。実用英語技能検定の準会場実施を2回に増やし、多くの生徒が受験した。生徒の学習要求に合致した内容の夏期講習を実施した。 ②総合的な学習の時間を活用し、社会人卒業生による講話、模擬投票、大学出張講義など多様な内容のキャリア教育実践プログラムを実施した。	①外部検定試験は、大学等の受験に必要となるものが増えているので、生徒へのさらなる広報と受験の奨励をする必要がある。 ②総合的な学習の時間に実施するキャリア教育実践プログラムは外部講師を招くことが多いので、日程の調整を適切におこなう必要がある。 ○①②ともに、業務量や実施後の効果を勘案しつつ次年度の実施について考えていく。	・1年のときは、具体的な目標がなかったが、大学等説明会で明治大学のバイオの話聞いて感動し、バイオの学部を受験している。 ・大学の地理学科の先生の話聞いて、その分野を目指し受験している。 ・大学出張授業の試みは良い機会として機能している。大学選びもそうだが、学部の選択が大切。 ・どの大学に行ったかではなく、その先にどういう道に進むか、どう社会に貢献するかが大切。自主性・主体性を育成してほしい。 ・進学に関しては、上位の大学ということだけでなく、その先の目指すべきことをしっかり考え、自主性を持って進路選択ができる生徒に育ててほしい。 ・指定校推薦説明会に行けなかったため、説明会がもう1回あると良かった。	① TOEIC Bridge や実用英語技能検定の準会場の実施により、生徒の外部検定試験への意識が高まった。TOEIC Bridge ではスピーキング技能の測定ができないのが課題である。第3回英検準会場実施の際、2次試験受験票の到着と入選日程の重複があり、余裕を持った実施が困難である。 ②多様な内容のキャリア教育実践プログラムを実施し、生徒の職業観を醸成することができた。どのプログラムも事前準備に時間と労力が多くかかることが課題である。	①TOEIC Bridge は GTEC に変更し、スピーキング能力の測定もおこなう。第3回実用英語技能検定の準会場実施が困難な場合は、公開会場受験に切り替えるとともに、生徒への広報を十分におこなう。 ②前年度の実施内容を踏まえ次年度の実施内容を検討し、グループ全体で業務にあたる。
4	地域等との協働	①地域の異校種等との協働、協力体制を推進する。 ②家庭や地域との協働、連携を促進するため、わかりやすく効果的な情報発信を適切に行う。	①近隣中学校や特別支援学校との協働、連携のため、公開研究授業や研究協議の場を活用する。 ②定期的な打ち合わせを活かし、迅速で充実したホームページ等の情報発信を行う。	①成果を共有できたか。（担当者評価） ②継続した改善を進め、効果的な情報発信となったか。（利用者アンケート、担当者評価）	①11月22日に公開研究授業を実施し、中学校からも1名の見学者があった。12月19日に生徒会役員による非行防止教室を近隣小学校で実施し、意欲的に取り組んだ。	①近隣の他校種や県内他校への見学を実施し成果を共有していく。	・学校行事と地域行事がもっと連携できるような年間行事計画を年度当初に交換していきたい。 ・地域と学校の防災訓練の合同実施を実現するために、努力を重ねて行きたい。 ・Kinnick High School との交流や PDA 即興型英語ディベートの活動を是非継続して欲しい。	②式典や学校行事、防災イベント、避難訓練などにおける地域との協働、PTA 組織を中心とした保護者との連携は、本校の教育活動の充実に大きく貢献している。生徒会役員生徒による非行防止教室を近隣小学校で実施したり、近隣の児童福祉施設の避難訓練の協力も意欲的に取り組んだ。また、今後も様々な交流活動の研究を進めていく。	②地域で行われる総合防災訓練等に生徒とともに参加することを検討する
5	学校管理学校運営	①グループを主体とする不祥事防止研修会を計画的、組織的に実施する。 ②各取組に対し、常に検証を行い、課題の的確な把握をするとともに、改善策に結び付ける。学校関係者の評価を取組に活かす。	①不祥事防止研修会の実効性を高め、より効果的に取り組む。手順や進行管理を明示し、計画的で確実な業務を行う。入選業務での正確性と効率化を目指す検討をする。 ②的確な課題の把握と解決のため、連携を密にし、学年やグループとの協働体制を強化する。	①不祥事防止研修会を7回以上実施し、点検体制を確実に機能させ、事故をゼロにすることができたか。入選業務を確実に実施したか。（担当者評価） ②目標達成のため、前期に中間評価を行い、その結果を後期の業務実践に活かされたか。（担当者評価、学校関係者評価）	①9回の研修会を職員主体で行い、関係グループが資料作りから研修会実施まで、計画的に実施できた。 ・入選業務は、入選委員会が統括し、綿密な実施計画の作成と面接・採点の事前研修会を重ね、基準に則った統一的な入選業務を実施できた。 ②学校関係者評価を踏まえ年間教育計画を大幅に見直した。	①成績処理業務において課題が残った。点検方法の更なる有効化と処理日程の調整が必要である。 ②生徒の成長を支える学校体制づくりを推進できているが、さらに抜本的な改革を視野に入れ、精神的に取り組み続けなければならない。 ・広報活動の重要性を踏まえより効果的な広報活動を行う。 ・県外進学指導先進校訪問を通じて本校の取組を見直し、新たな取組を行う。	・荒天時の連絡をできるだけ早くして欲しい。 ・3年の教室は、夏は暑くて冬はほこりっぽい。遮熱カーテンをする、静かなときに窓を開けて換気するなど、環境整備をしてほしい。 ・授業時数確保のため、学校現場では行事を減らしている。その中で、文化祭、体育祭を同年開催にするのはすごいこと。特活は主体的・対話的で深い学びを実現するのに授業でできない部分を補うことができる。ぜひ、今後も続けてもらいたい。	①職員主体の不祥事防止研修会を9回実施することができ、行動計画については概ね目標を達成することができた。事故がゼロになるよう、年間を通じて引き続き研修を行うとともに、より有効な手立てを検討する必要がある。 ②学校関係者の評価を踏まえ、年間教育計画を見直し、新たな取組を計画することができた。関係グループと学年が連携して円滑に実施することが課題である。	①職員主体の不祥事防止研修会を引き続き行う。成績処理関係業務については、観点別評価の記載方法や成績処理シートの工夫等の手立てを行う。 ②新たに保護者対象進路説明会を年2回設定し、進路や学校生活に関する情報提供の機会を増やす。また、気象警報発令時の対応を改訂した。これに基づいた対応をするともに生徒への周知を図る。